

昔懐かしい 駄菓子屋を守って



潮 幸治さん
(錦町・77歳)

現在、40から50歳代の人たちが小学生のころ、学校のそばには、子ども相手に文房具や駄菓子を売る店が必ず2、3軒はあったものです。放課後になると、子どもたちは、お金を握り絞めて店に立ち寄ります。店内でお好み焼きを焼いたり、店先ではローセキやメンコなどで日が暮れるまで遊んだものでした。塾通いやTVゲームのなかったころの話です。今回は、駄菓子を扱う卸商を長年続けてこられた潮さんを訪ねてみました。

「私の店は、昭和25年創業の駄菓子を扱う卸商です。かつては市内に数十件あった駄菓子屋に、商品を自転車に積んで卸して回ったものです。商品は、お菓子とおもちゃです。これを業界では「食・玩」(しょくがん=食品と玩具)といいます。食品は、きんか糖、甘納豆、せんべい類が多く、玩具は、シャボン玉、風船、花火等でした。今では、きんか糖はほとんど見かけられなくなってし

ぶんがくかん発
Vol.173

永井文学の真骨頂 新装版「歴史をさわがせた女たち」

アグリッピナ、エレオノール・ダキテーヌ、イサベラ、マリア・テレジア、ジャンヌ・ダルク、則天武后、クレオパトラ、楊貴妃、ローザ・ルクセンブルク、メアリ・リンカーン、孝謙女帝、北条政子、細川ガラシャ、卑弥呼、藤原薬子、日野富子、紫式部、静御前、出雲お国...

歴史の愛好家には、これら洋の東西の女性の経歴がすぐさま頭に浮かんだことでしょう。彼女たちは、あるいは貞女、あるいは猛女・烈女と呼ばれ、はたまた悪女とまで言われながら、それぞれの時代を彩った女性たちです。

えっ、半分も知らなかった？ しかし案ずる事なかれ。たしかな史実に基づいて、彼女たちの本音を生き生きと描き、そのスケールの大きな人生をユーモラスを混ぜてつづられている、そんな本をご紹介します。そう、御存じ、永井路子著『歴史をさわがせた女たち』です。

今年6月、『歴史をさわがせた女たち』の日本篇・外国篇が、文春文庫より新装版として新たに刊行されました。昭和44年に刊行された『日本スーパーレディ物語』に始まるこの「歴史をさわ

がせた」シリーズは、外国篇(47年)、日本篇(50年、『日本スーパーレディ物語』を改訂・改題)、庶民篇(51年)と『歴史をさわがせた夫婦たち』(52年)、『新・歴史をさわがせた女たち』(61年)といずれもベストセラーを記録してきました。

ところで、永井路子の作品世界には、いくつかの際だった特徴があります。『炎環』等にみられる小説形式の新しさ。『氷輪』等の正統的史伝作品。『この世をば』に代表される、従来あまり取りあげられなかった時代に光をあてたこと等々。

そして何よりも、史料・史実に忠実に、しかも従来の通説に異議を唱えていること、また、「歴史」に生きる女性たちの立場を新しい



新装版「歴史をさわがせた女たち」(文春文庫)

視点で描き直したことは、永井路子をして歴史小説の第一人者たらしめている要因であるといえます。

その意味では『歴史をさわがせた女たち』は永井文学の真骨頂をかいま見ることができる作品といえましょう。

(特別展「永井路子展」は、10/17から開催)